

平成23年3月期第2四半期決算発表 補足資料

□ はH22/5公表値

	22年3月期 第2四半期累計		23年3月期 第2四半期累計		前年 同期比	22年3月期 通期		23年3月期 通期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		実績	構成比	見通し	構成比	
売上高合計	1,034	100%	1,200	100%	16%	2,355	100%	2,550	100%	8%
<海外売上高合計>	<495>		<653>			<1,221>		<1,420>		
電力関連事業	391	38%	296	25%	-24%	873	37%	760	30%	-13%
営業利益(%)	37	(9%)	-42	-	-	80	(9%)	-35	-	-
セラミックス事業	442	43%	594	50%	34%	1,017	43%	1,170	46%	15%
営業利益(%)	31	(7%)	154	(26%)	397%	132	(13%)	245	(21%)	86%
エレクトロニクス事業	202	19%	312	26%	55%	469	20%	620	24%	32%
営業利益(%)	-5	-	54	(17%)	-	23	(5%)	90	(15%)	293%
セグメント間売上消去	-1		-2			-4		-		
営業利益(%)	63	6%	166	14%	164%	235	10%	300	12%	28%
経常利益(%)	58	6%	144	12%	147%	249	11%	300	12%	21%
当期純利益(%)	37	4%	110	9%	194%	178	8%	235	9%	32%
1株利益	11.4円		33.6円			54.5円		72.0円		
配当性向	69.9%		29.7%			29.4%		27.8%		
設備投資	97	9%	124	10%	29%	209	9%	315	12%	51%
減価償却費	90	9%	91	8%	1%	189	8%	190	7%	0%
研究開発費	51	5%	51	4%	2%	107	5%	115	5%	7%
為替レート(円/\$)	95		91			94		87		
為替レート(円/ER)	128		121			130		116		

平成23年3月期 第2四半期累計期間 連結業績の要点

① 概況 前年同期比増収増益

電力関連で中国のがいしやNAS電池の需要が減少した一方で、セラミックス事業で自動車販売台数の増加により自動車関連製品の需要が増加したほか、エレクトロニクス事業も市況の回復により堅調に推移したことから、前年同期比で増収増益。

② 事業別業績概況

電力関連 : 前年同期比 95 億円の減収(為替影響△4 億円)。がいしは国内 50 万Vの大口案件の減少や中国市場での需要減等により減収。NAS電池は海外案件の端境期にあたり減収。利益はがいし・NAS電池の落込みに加えて円高影響もあり 79 億円の減益(為替影響△1 億円)。

セラミックス : 前年同期比 152 億円の増収(為替影響△20 億円)。自動車関連製品は各国のインセンティブ効果に加えて新興国を中心とした自動車販売台数の増加により大幅な増収。産業プロセス関連は客先設備投資が低調で減収。利益は売上高の大幅な増加により 123 億円の増益(為替影響△8 億円)。

エレクトロニクス: 前年同期比 110 億円の増収(為替影響△6 億円)。ベリウム銅展伸材は市況回復により増収。半導体製造装置用セラミックス製品は半導体メーカーの設備投資回復による需要増により増収。カラープリンター用機能部品はプリンターの販売台数増加により増収。双信電機は産業機器向けや鉄道・カーエレクトロニクス向けの需要が回復し増収。利益は売上高の増加により円高影響を吸収して 59 億円の増益(為替影響△6 億円)。

③ 為替影響 連結: 売上△30 億円、営業利益△15 億円(前期 95 円→当期 91 円/\$、128 円→121 円/ER)

④ 連結範囲 : 連結子会社数 55 社、持分法適用会社数 2 社

平成23年3月期 通期 連結業績見通しの要点

① 概況 前期比増収増益

電力関連で中国のがいしやNAS電池の需要が減少する一方で、下半期に不透明感が残るものの自動車関連製品を中心としたセラミックス事業やエレクトロニクス事業が堅調に推移する見通しから、円高影響を吸収して前期比で増収増益となる見通し。

② 事業別業績見通し

電力関連 : 前期比減収(為替影響△13 億円)。がいしは中国での大口案件の遅れや競合激化による売価下落の影響により大幅減収。NASも海外案件や国内風力の見直しにより大幅減収。利益はがいしやNAS電池の落込みが大きく前期比で大幅な減益の見通し。

セラミックス : 前期比増収(為替影響△66 億円)。自動車関連は各国インセンティブ終了が懸念されるものの、新興国を中心とした需要増加やバス・トラック市場の回復などもあり、円高影響を吸収して大幅な増収。産業プロセス関連は客先投資計画の凍結等により減収。利益は自動車関連製品の売上高の増加により前期比で増益の見通し。

エレクトロニクス : 前期比増収(為替影響△19 億円)。ベリウム銅展伸材は市況の回復により増収。半導体製造装置用セラミックス製品は半導体市況の回復に伴う半導体メーカーの設備投資増により増収。カラープリンター用機能部品はプリンターの販売台数増による物量増により増収。双信電機は産業機器向けや鉄道・カーエレクトロニクス向けの需要が堅調に推移し増収。利益は売上高の増加により前期比で増益の見通し。

③ 為替影響 連結: 売上△98 億円、営業利益△33 億円
(前期 94 円→当期 87 円/\$、130 円→116 円/ER)

④ 予想 ROE : 7.7% (前期比+1.6%)

⑤ 配当見込み: 中間 10 円、期末 10 円の年間 20 円の予定。

⑥ 連結範囲 : 連結子会社数 55 社、持分法適用会社 2 社